

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

牛肉卸売価格は高止まり、23年9月の牛肉輸入量は前年同月比で大幅増

23年11月のフィードロット飼養頭数は前年同月比1.7%増

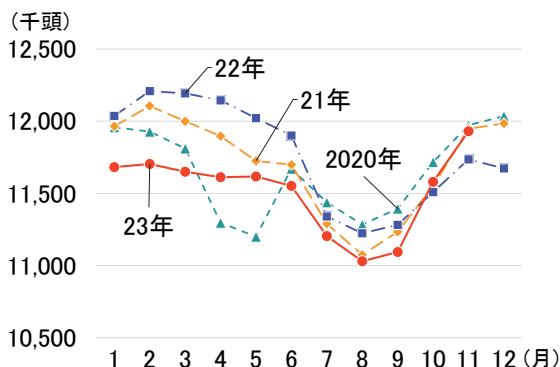
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年10月のフィードロット導入頭数は216万4000頭（前年同月比3.8%増）とやや増加し、出荷頭数は175万8000頭（同2.5%減）とわずかに減少した。この結果、23年11月1日時点のフィードロット飼養頭数は1193万1000頭（同1.7%増）とわずかに増加した（図1）。USDAによると、米国の肥育もと牛価格が高騰する中、干ばつの影響を受けるメキシコからの生体輸入の増加が、フィードロット導入頭数を下支えしているとされる。

23年10月の牛肉卸売価格、前年同月比20.5%高

USDA/NASSによると、2023年10月の牛と畜頭数は276万8000頭（前年同月比2.6%減）とわずかに減少した。この結果、同月の牛肉生産量は106万2000トン（同2.6%減）となった。

また、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、23年10月の肥育牛価格は100ポンド当たり184.66米ドル（1キログラム当たり603円：1米ドル＝148.07円^{（注）}、同23.9%高）と大幅に上昇した。これに伴い、同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は100ポンド当たり303.10米ドル（1キログラム当たり989円、同20.5%高）となり、需給がひっ迫する中、前年を上回る水準で推移している（図2）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



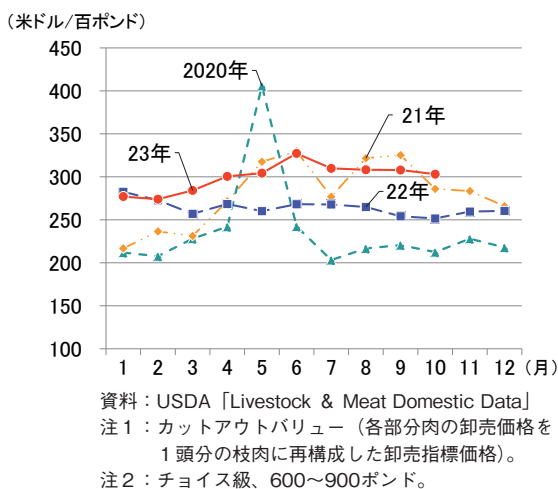
資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

図2 牛肉卸売価格の推移



23年9月の牛肉輸出量は前年同月比17.1%減、輸入量は21.1%増

USDA/ERSによると、2023年9月の牛

肉輸出量は10万5008トン（前年同月比17.1%減）と大幅に減少し、23年1～9月累計では104万9913トン（前年同期比14.2%減）とかなり大きく減少した（表1）。国内生産量の減少に伴う牛肉価格の高騰や、米ドル高による米国産牛肉の価格競争力の低下を背景に、アジア諸国向けを中心に輸出量の減少が続いている。一方で、豪州やニュージーランドから安価な牛肉の輸入量が増加しており、23年9月の牛肉輸入量は14万1940トン（前年同月比21.1%増）と大幅に増加した（表2）。こうした状況を踏まえUSDAは、23年の輸入量見込みを前月予測から1万6000トン引き上げ、165万7000トン（前年比7.8%増）と見込んでいる。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年 (1～9月)	
					前年同期比 (増減率)	
韓国	28,378	21,428	▲24.5%	20.4%	232,045	▲16.8%
日本	29,933	20,846	▲30.4%	19.9%	224,416	▲21.0%
中国	22,985	18,923	▲17.7%	18.0%	176,982	▲20.4%
メキシコ	10,941	11,693	6.9%	11.1%	104,398	14.7%
カナダ	9,011	9,783	8.6%	9.3%	93,517	0.9%
台湾	5,716	4,866	▲14.9%	4.6%	67,362	▲6.9%
香港	4,168	4,256	2.1%	4.1%	30,445	15.0%
その他	15,537	13,212	▲15.0%	12.6%	120,748	▲22.7%
合計	126,668	105,008	▲17.1%	100.0%	1,049,913	▲14.2%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	23年 (1～9月)	
					前年同期比 (増減率)	
カナダ	39,767	40,928	2.9%	28.8%	330,584	2.3%
豪州	17,287	31,490	82.2%	22.2%	201,158	49.0%
メキシコ	25,300	22,937	▲9.3%	16.2%	230,324	▲10.9%
NZ	9,598	18,064	88.2%	12.7%	199,941	34.2%
ブラジル	11,349	11,380	0.3%	8.0%	170,047	▲9.8%
その他	13,906	17,142	23.3%	12.1%	148,799	3.7%
合計	117,206	141,940	21.1%	100.0%	1,280,854	6.9%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

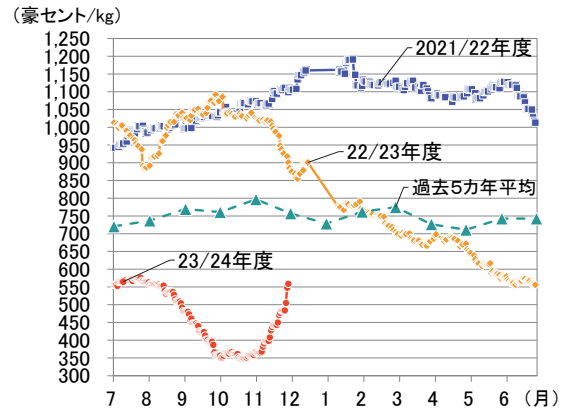
米国向けを中心に牛肉輸出量は大幅増

降雨による牧草確保の見通しから肉牛価格が反発

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2023年11月に入り大きく反発している。直近11月29日時点の同価格は1キログラム当たり559豪セント（556円：1豪ドル＝99.45円（注1））と、このひと月の間で同200豪セント（199円）以上上昇し、4カ月前の水準まで戻した（図1）。現地報道によると、エルニーニョ現象の発生により乾燥した気候が予想される中で、一部地域で一定の降雨が記録されたことで、年末に向けて牧草を確保できるとの見通しから、若齢牛の需要が強まっていることが要因とされている（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

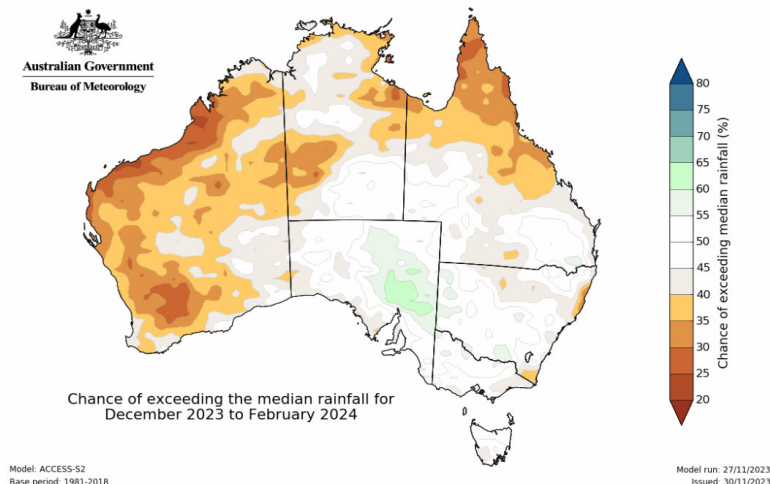
注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

成牛と畜頭数および牛肉生産量は堅調に推移

豪州統計局（ABS）が2023年11月に公表した統計によると、23年7～9月期の牛のと畜頭数は191万頭（前期比10.5%増）、

図2 2023年12月～24年2月の豪州における降雨予想図

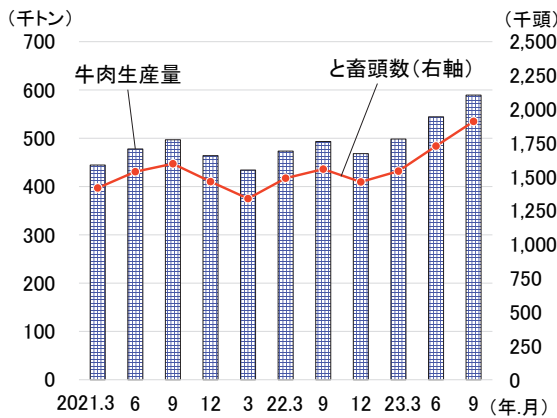


資料：BOMウェブサイトから引用

牛肉生産量は58万9400トン（同8.3%増）と堅調に推移している（図3）。MLAによると、これらの動きは今後の干ばつに備えて、牧草肥育農家からの肥育牛の早期出荷の動きを反映したものとされている。

豪州フィードロット協会（ALFA）とMLA

図3 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS
 注1：四半期ごとの数値。
 注2：生産量は枝肉重量ベース。
 注3：と畜頭数は子牛を除く。

が四半期ごとに共同で実施している全国フィードロット飼養動向調査によると、23年7～9月期末のフィードロット飼養頭数は、157万6858頭と過去最高を記録した。今後予想される乾燥した気候でも安定的な牛肉生産が可能であることから、フィードロットの飼養規模が拡大している（注2）。

（注2）海外情報「2023年9月末のフィードロット収容可能頭数、過去最高を更新（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003636.html）を参照されたい。

23年10月の米国向け牛肉輸出量、前年同月から倍増

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年10月の牛肉輸出量は、成牛と畜頭数と牛肉生産量の増加を背景に、10万5131トン（前年同月比44.1%増）と大幅に増加した（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 10月	23年 10月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～10月)	
				前年同期比 (増減率)	
米国	13,752	27,613	100.8%	190,754	76.8%
中国	14,318	19,675	37.4%	171,586	30.3%
韓国	13,297	17,502	31.6%	155,349	18.3%
日本	15,751	16,563	5.2%	169,931	▲ 5.9%
東南アジア	7,898	11,129	40.9%	97,058	27.9%
中東	2,447	2,948	20.5%	23,566	▲ 1.2%
EU	468	841	79.9%	7,287	14.7%
その他	5,049	8,859	75.5%	66,348	29.5%
輸出量合計	72,979	105,131	44.1%	881,880	24.4%

資料：DAFF
 注1：船積重量ベース。
 注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。
 注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

特に米国向けは、同国の牛群再構築に伴う牛肉生産量減少を背景に、2万7613トンと前年同月比2倍となった。また、中国向けは1万9675トン（同37.4%増）、1～10月

の累計でも17万1586トン（前年同期比30.3%増）と大幅に増加している。現地報道によると、豪中自由貿易協定（FTA）で定められた19万6349トンのセーフガード

数量を年内を超える可能性が指摘されており、本数量を超過した場合、現在の1.2%の関税が年末まで12%に引き上げられることになる。他方で連邦政府のファレル通商大臣は11月、約3年にわたり中国向け輸出が停止している食肉処理施設について、年末まで

に中国側から再開合意が得られる見通しであることを公表している^(注3)。

(注3) 海外情報「豪州政府、主要食肉輸出3施設からの中国向け輸出再開を発表(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003659.html)を参照されたい。

(調査情報部 国際調査グループ)

中国

牛肉生産量は増加、牛肉価格は下落

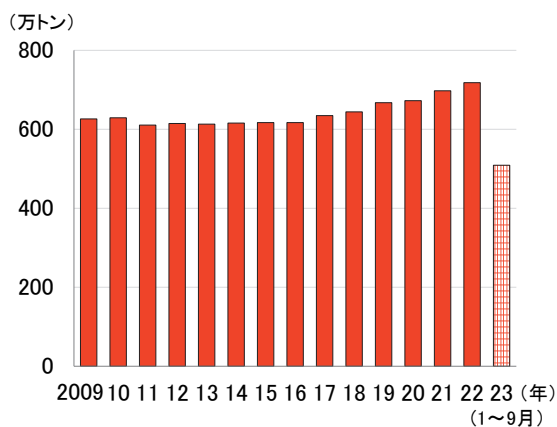
23年1～9月の牛肉生産量、前年同期比5.0%増

中国国家统计局によると、2023年1～9月期の牛肉生産量は、前年同期比5.0%増の509万トンとなった(図1)。

中国農業農村部が23年4月に公表した「中国農業展望報告(2023-32)」^(注1)によると、23年の牛肉生産量は飼養頭数の増加などにより729万トン(前年比1.5%増)と増加を見込んでいる。

(注1) 海外情報「中国農業展望報告(2023-2032)を発表(牛肉編)(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003556.html)を参照されたい。

図1 牛肉生産量の推移



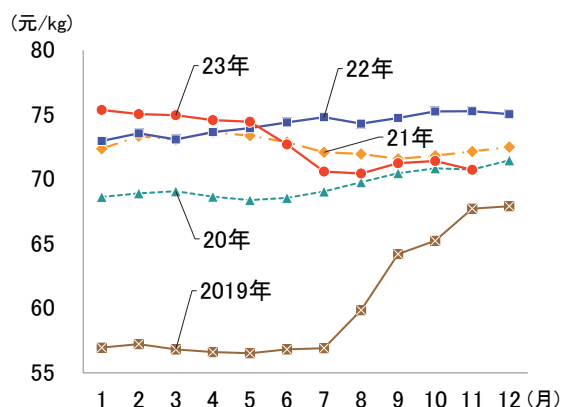
資料：中国国家统计局

23年11月の牛肉価格、前年同期比6%安と20年水準に下落

牛肉の卸売価格は、需要の拡大や飼料価格高騰などを背景に2019年後半以降高値で推移していたが、23年に入ってから徐々に下降している。同年6月以降は21年を下回る水準となり、11月には1キログラム当たり70.7元(1478円：1元＝20.90円^(注2)、前年同月比6.0%安)と、20年の水準にまで下落した(図2)。

この要因について現地専門家は、(1)肉牛飼養頭数の増加などにより牛肉生産量が増加していること(2)豚肉価格の下落^(注3)により相対的に価格の高い牛肉の購買意欲が低下したこと(3)5月以降の気温の上昇や夏休みによる学校給食の休止などの季節的な要因によ

図2 牛肉卸売価格の推移



資料：中国商務部

り消費が減少したことを挙げている。また、7月末に2回行われた国家備蓄制度による牛・羊肉の買入れ・保管や、9月末から10月初旬の祭日（中秋節および国慶節）での牛肉需要の増加などを受け、やや値を戻したものの、反転の兆しは見られない状況にあるとみている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

(注3) 『畜産の情報』2023年12月号「豚肉価格は季節需要でやや回復も、前年並みの高騰は期待薄」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003002.html)を参照されたい。

23年の牛肉輸入量は引き続き増加傾向で推移

中国の牛肉輸入量は、牛肉生産量が増加基調にある一方、高まる需要を背景に増加傾向

で推移している。2023年1～10月の牛肉輸入実績を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は220万8630トン（前年比2.7%増）とわずかに増加した（表1）。また、冷蔵牛肉の輸入量は5万901トン（同15.6%増）とかなり大きく増加した（表2）。

一方、米国農務省は10月12日、24年の中国の牛肉輸入動向（冷凍および冷蔵）について、本年よりも減少するとのレポートを公表した（枝肉重量相当で23年：360万トン、24年：350万トン（23年比2.8%減））。同レポートでは、この減少要因について、中国での牛肉生産量が増加（770万トン、同2.7%増）する中で、消費の伸びの鈍化（1118万トン、同0.9%増）が見込まれるためとしている。

表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	399.6	848.4	858.5	1,105.2	942.2	8.8%
アルゼンチン	375.5	481.1	461.7	488.2	445.6	11.8%
ウルグアイ	285.7	228.3	352.9	356.1	229.9	▲25.3%
ニュージーランド	205.2	160.9	191.7	206.2	173.2	▲4.9%
豪州	279.7	220.0	138.6	159.3	164.6	26.8%
米国	9.0	24.6	130.7	162.0	118.9	▲9.4%
その他	67.3	106.2	145.2	160.9	134.2	▲0.7%
合計	1,622.0	2,069.6	2,279.3	2,637.8	2,208.6	2.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
豪州	27.5	33.4	24.2	23.2	25.8	30.6%
米国	0.9	3.5	13.2	16.4	14.9	11.8%
ニュージーランド	9.2	8.9	10.1	9.7	7.8	▲9.3%
アルゼンチン	0.1	1.5	3.5	2.3	1.3	▲35.4%
ロシア	—	0.01	0.2	0.4	0.6	206.3%
ウルグアイ	0.1	1.3	2.3	0.1	0.4	248.6%
その他	0.11	0.1	0.01	0.003	0.04	2083.3%
合計	37.9	48.7	53.6	52.1	50.9	15.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

(調査情報部 平山 宗幸)

豚肉

EU

減産傾向は変わらず、枝肉価格の下落も継続

23年8月の豚肉生産量、前年同月比5.3%減

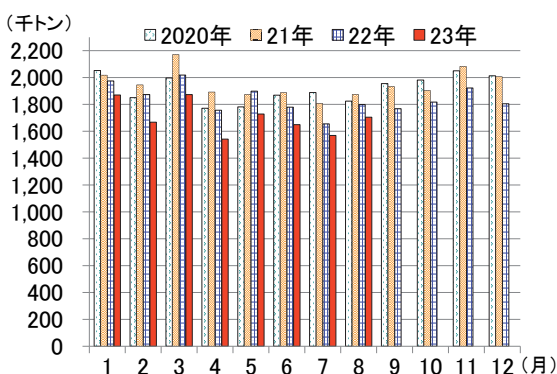
欧州委員会によると、2023年8月の豚肉生産量（EU27カ国）は、170万トン（前年同月比5.3%減）とやや減少し、15カ月連続で前年同月を下回った（図1）。同月の1頭

当たり枝肉重量は92.1キログラム（同1.7%増）と前年同月をわずかに上回ったが、と畜頭数が1850万頭（同6.9%減）とかなりの程度減少したことが影響した。この要因として、欧州での母猪飼養頭数の減少や、アフリカ豚熱（ASF）^{（注1）}の収束が見通せないことが挙げられる。欧州委員会によると、飼料価格が徐々に下落しているため、本年末から24年にかけて、生産量はいくらか回復すると見込んでいる。

（注1）直近では、11月下旬にもボスニア・ヘルツェゴビナやルーマニアなどの東欧諸国の養豚場でアフリカ豚熱の発生が確認されている他、ドイツやイタリアでも継続的に野生イノシシの感染が確認されている。

23年1～8月の豚肉生産量を主要国別に見ると、生産量第1位のスペインは、前年同期比4.3%減の321万7990トンとなった（表1）。この要因として米国農務省(USDA)

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量の推移

（単位：千トン）

	2022年 8月	23年 8月	前年同月比 （増減率）	23年 （1～8月）	
				前年同期比 （増減率）	
スペイン	376	373	▲ 0.7%	3,218	▲ 4.3%
ドイツ	373	360	▲ 3.5%	2,750	▲ 8.3%
フランス	180	177	▲ 1.8%	1,377	▲ 4.2%
ポーランド	144	155	7.8%	1,136	▲ 4.2%
オランダ	143	124	▲ 13.3%	966	▲ 14.5%
デンマーク	148	101	▲ 31.5%	863	▲ 22.4%
イタリア	103	94	▲ 8.3%	804	▲ 5.0%
その他	333	320	▲ 3.9%	2,488	▲ 7.2%
合計	1,799	1,704	▲ 5.3%	13,603	▲ 7.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

は、中国向け輸出の減退に加え、22年に発生した豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）による産子数の減少と23年3月から同国政府が実施しているアニマルウェルフェア規制の厳格化の影響^(注2)としている。

(注2) 海外情報「スペイン豚肉生産、アニマルウェルフェア規制の厳格化などで減少見込み（EU）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003607.html) を参照されたい。

23年10月の枝肉価格、3カ月連続で前月を下回る

欧州委員会によると、2023年10月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比7.5%高の100キログラム当たり217.91ユーロ（3万5522円：1ユーロ＝163.01円^(注3)）となった（図2）。同価格は引き続き前年を上回っているが、前月比4.6%安となり、8月から3カ月連続での下落となった。また、週別の価格動向を見ると、7月中旬以降から18週連続で前週を下回っている。ただし、下落幅は落ち着きを見せており、11

月6日の週別価格は、前週から0.02ユーロ（3円）の下落にとどまった。一方、現地報道によると、年末にかけて小売需要の一定の増加が見込まれるが、多くの加盟国で引き続き需給が緩和していることもあり、価格は下落基調で推移するとされている。

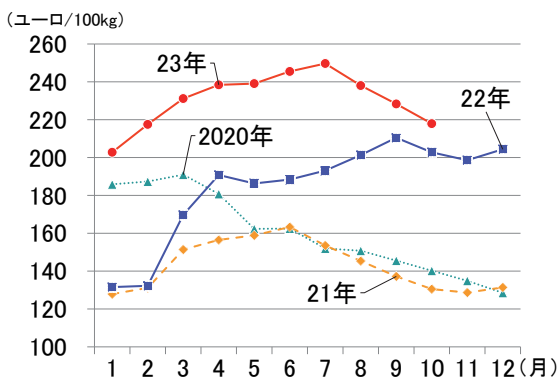
(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

23年9月の豚肉輸出量、引き続きアジアを中心に大幅に減少

欧州委員会によると、2023年9月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、16万1856トン（前年同月比34.5%減）と大幅に減少した（表2）。23年1～9月の累計では、英国を除くすべての主要輸出先が大幅に減少している。この要因について、同委員会が10月9日に公表した農畜産物の短期的需給見通しによると、中国での豚肉生産の回復やEU域内での需要増に加えて、前述の通りEU産豚枝肉価格が高値で推移していることにより、米国、日本、豪州向けの高価格品やフィリピン向けの低価格品でも輸出量が低下しているためとしている。

一方、同期間の英国向け輸出量は、25万8255トン（前年同期比11.2%増）とかなり大きく増加した。英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、外食を通じた英国の豚肉消費量は年々増加しており、英国産に比べEU産の価格が低いことも輸出量が増加している要因としている。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移 (EU域外向け)

(単位：トン)

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年	前年同月比
					(1～9月)	(増減率)
中国	84,373	40,455	▲ 52.1%	25.0%	438,452	▲ 26.9%
英国	27,714	29,153	5.2%	18.0%	258,255	11.2%
日本	30,682	19,007	▲ 38.1%	11.7%	224,814	▲ 22.7%
韓国	14,197	13,031	▲ 8.2%	8.1%	138,164	▲ 30.6%
フィリピン	18,565	10,636	▲ 42.7%	6.6%	82,882	▲ 54.1%
米国	3,492	5,068	45.1%	3.1%	32,780	▲ 48.4%
その他	68,126	44,506	▲ 34.7%	27.5%	402,766	▲ 33.5%
合計	247,149	161,856	▲ 34.5%	100.0%	1,578,113	▲ 27.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

(調査情報部 藤岡 洋太)

ブラジル

23年1～10月の豚肉輸出量は増加傾向で推移

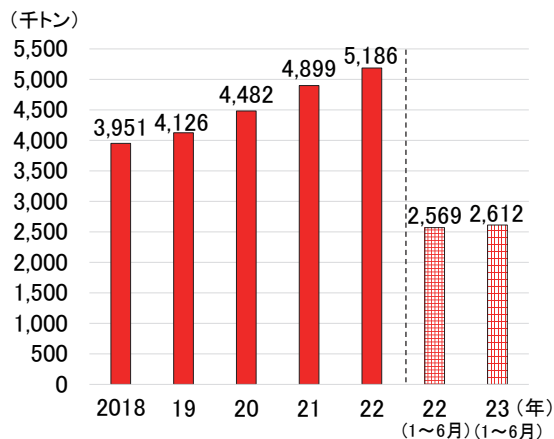
23年の豚肉生産量は増加傾向を継続して推移

ブラジル地理統計院 (IBGE) によると、2023年1～6月の豚肉生産量は261万2000トン (前年同期比1.7%増) と前年同期をわずかに上回った (図1)。同国の豚肉

生産量は22年まで9年連続で増加しており、23年も国内外からの堅調な需要により増産傾向は継続している。

ブラジル農牧省 (MAPA) が23年1月に公表した22～32年の豚肉長期需給予測では、この間 (10年間) に同国の豚肉生産量は年平均2.4%増加すると見込んでいる。

図1 豚肉生産量の推移



資料：IBGE

注1：枝肉重量ベース。

注2：2023年は速報値。

23年10月の生体豚価格 (肥育豚) は前年同月比6.3%安

サンパウロ大学農学部応用経済研究所 (CEPEA) によると、2023年10月のブラジルの生体豚価格 (肥育豚、パラナ州) は、1キログラム当たり6.27リアル (188円：1リアル=30.00円^(注) 前年同月比6.3%安) となった (図2)。これは、飼料穀物の豊作により価格が下落し、豚肉生産コストが低下したことなどが背景にあるとみられる。

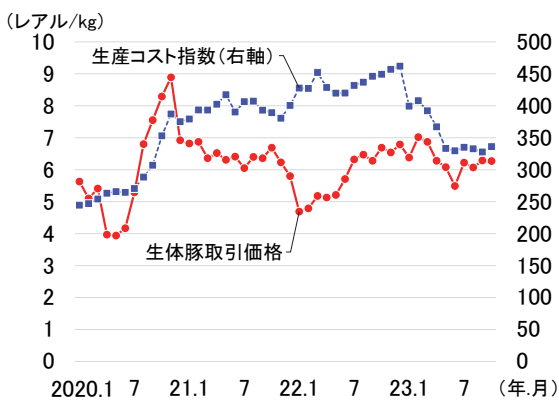
近年の価格動向を見ると、22年1月から

上昇傾向で推移し、23年2月には同7.02リアル（211円）となり、20年11月以来の同7リアルを超える高値となった。これは、コロナ禍からの経済回復による供給網の混乱や人手不足の状況に加え、ウクライナ情勢などを背景とした飼料穀物やエネルギー価格の高騰により生産コストが上昇したことなどが要因である。このため、独立系を中心とした中小規模の養豚農家では、生産コストの増加分を吸収できずに収益性が悪化し、経営難に陥るケースも見られた。

現地報道によると、最近の養豚農家の収益性は、豚肉生産コストが低下したことから、これまでの厳しい状況から回復したとされている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 肥育豚の生体豚取引価格および生産コスト指数の推移



資料：生体豚取引価格：CEPEA、生産コスト指数：ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）

注1：パラナ州における生体取引価格。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

23年1～10月の豚肉輸出量、中国向けの落ち込みをその他の輸出先向けで補完

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2023年1～10月の豚肉輸出量は90万916トン（前年同期比7.7%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。近年の同国の豚肉輸出量は、アジアや欧州などで発生したアフリカ豚熱の影響で中国向けを中心に大幅に増加し、22年は前年並みにとどまったものの2年連続で100万トンを超えている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先であり輸出量全体の35%を占める中国向けは31万9566トン（同7.3%減）と前年同期をかなりの程度下回った。月別の輸出量を見ると、中国国内での豚肉需給の緩和を背景に8月以降は月2万トン台に減少しており、いずれも前年同月を大幅に下回った。一方、香港、フィリピン、チリといったその他の主要輸出先向けは大幅に増加し、中国向けの落ち込みを補完している。特に22年11月にインフレ対策としてブラジルからの豚肉輸入を解禁したメキシコ向けは、2万2793トンと大きく増加している。メキシコは、中国、日本に次ぐ世界第3位の豚肉輸入国であり、米国産を中心に豚肉を輸入している。ブラジルからの豚肉輸入は現在、口蹄疫ワクチン非接種清浄地域であるブラジル南部サンタカタリーナ州からのみ認めている状況にあるが、将来的には輸入対象地域拡大の可能性もあるとみられる。

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

区分	2022年（1～10月）			23年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	344,766	804,989	2,335	319,566	776,927	2,431	▲7.3%	▲3.5%	4.1%
香港	73,200	154,609	2,112	86,654	208,013	2,400	18.4%	34.5%	13.7%
フィリピン	65,925	160,192	2,430	86,116	226,671	2,632	30.6%	41.5%	8.3%
チリ	46,560	104,064	2,235	68,377	157,334	2,301	46.9%	51.2%	2.9%
シンガポール	47,095	113,308	2,406	52,404	136,471	2,604	11.3%	20.4%	8.2%
ウルグアイ	38,295	86,422	2,257	41,312	100,289	2,428	7.9%	16.0%	7.6%
ベトナム	34,456	73,941	2,146	38,298	90,335	2,359	11.2%	22.2%	9.9%
日本	21,128	82,487	3,904	31,153	105,764	3,395	47.4%	28.2%	▲13.0%
ジョージア	15,447	31,040	2,009	23,798	53,853	2,263	54.1%	73.5%	12.6%
メキシコ	0	1	—	22,793	57,103	2,505	—	—	—
その他	149,414	342,356	2,291	130,445	295,824	2,268	▲12.7%	▲13.6%	▲1.0%
合計	836,286	1,953,408	2,336	900,916	2,208,585	2,451	7.7%	13.1%	5.0%

資料：SECEX

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

（調査情報部 井田 俊二）

鶏肉

米 国

23年の鶏肉生産量は前年並み、輸出量は前年比1.5%減の見込み

23年1～10月の鶏肉生産量はわずかに増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年1～10月の食鳥（ブロイラー）処理羽数は78億9300万羽（前年同期比0.4%増）、生体重量が1羽当たり2.96キログラム（同0.9%増）となり、処理羽数、

生体重量ともにわずかに増加した（表1）。この結果、同期間の鶏肉生産量は1766万4000トン（同1.4%増）と前年同期をわずかに上回った。

23年の鶏肉生産量についてUSDAは、9、10月の肉用鶏卵^{ふか}孵化数の減少などから、前月予測を引き下げ前年並みの2096万トンと見込んでいる。

表1 鶏肉生産量の推移

	2022年 (1～12月)		23年 10月		23年 (1～10月)	
		前年比 (増減率)		前年同月比 (増減率)		前年同期比 (増減率)
生産量(千トン)	20,959	2.9%	1,891	0.9%	17,664	1.4%
処理羽数(百万羽)	9,431	2.4%	824	0.3%	7,893	0.4%
生体重量(キログラム/羽)	2.94	0.4%	3.04	0.6%	2.96	0.9%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

23年10月の卸売価格は前年同月比7.1%安

USDA/ERSによると、2023年10月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.13米ドル（1キログラム当たり370円：1米ドル＝148.07円^{（注）}、前年同月比7.1%安）となった（図1）。同価格は高騰した前年同月を下回っているが、19～21年の水準を上回って推移している。また、同月の鶏肉期末在庫量は37万2710トン（同3.2%減）となり、9月に続き前年同月をやや下回った（図2）。24年の卸売価格についてUSDAは、在庫量の減少や減産による供給量の低下などから堅調に推移すると見込んでいる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

図1 鶏肉の卸売価格の推移

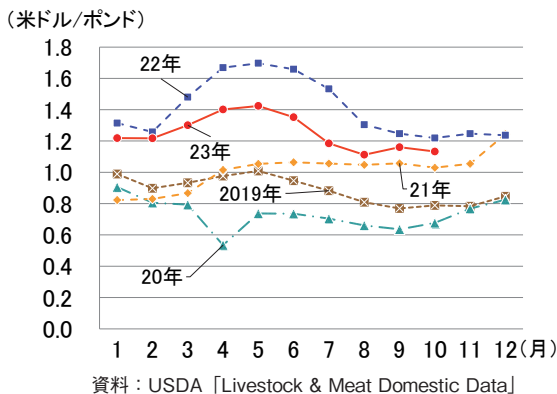
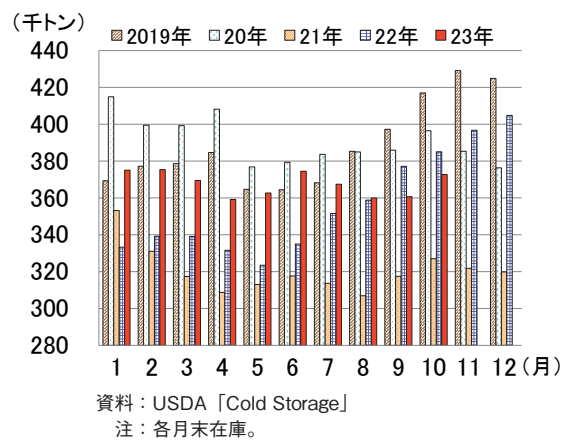


図2 鶏肉在庫量の推移



23年1～9月の鶏肉輸出量、前年同期比1.3%増

USDA/ERSによると、2023年9月の鶏肉輸出量は25万3478トン（前年同月比5.4%減）とやや減少した（表2）。主要輸出先別に見ると、メキシコ向けは堅調な需要とペソ高の為替相場などを背景に5万6831トン（同1.2%増）とわずかに増加した。一方、フィリピン向けは1万8335トン（同13.3%減）、台湾向けは1万3780トン（同9.5%減）、キューバ向けは1万1900トン（同43.4%減）と、多くの輸出先で前年同月を下回った。23年1～9月累計では、輸出量首位のメキシコ向けの増加などから、246万2722トン（前年同期比1.3%増）と前年同期をわずかに上回っている。

23年の鶏肉輸出量についてUSDAは、本

年第4四半期（10～12月）の国内生産量の減少が見込まれることから前月予測を下方

修正し、325万7000トン（前年比1.5%減）と前年をわずかに下回ると見込んでいる。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～9月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	56,142	56,831	1.2%	22.4%	535,060	11.7%
フィリピン	21,150	18,335	▲13.3%	7.2%	122,269	▲14.6%
台湾	15,230	13,780	▲9.5%	5.4%	216,080	13.2%
キューバ	21,031	11,900	▲43.4%	4.7%	208,977	2.9%
カナダ	13,889	11,886	▲14.4%	4.7%	108,503	▲8.0%
グアテマラ	10,999	11,314	2.9%	4.5%	103,049	7.0%
アンゴラ	20,672	9,848	▲52.4%	3.9%	75,773	▲27.3%
中国	6,907	9,342	35.3%	3.7%	110,136	11.2%
ジョージア	5,989	5,527	▲7.7%	2.2%	55,528	18.5%
その他	95,847	104,716	9.3%	41.3%	927,347	▲2.4%
合計	267,856	253,478	▲5.4%	100.0%	2,462,722	1.3%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

ブラジル

23年鶏肉輸出量、中国向けは前年の落ち込みから回復

23年1～10月の鶏肉輸出量は前年同期比7.5%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2023年1～10月の鶏肉輸出量は395万3948トン（前年同期比7.5%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。これは、米国など主要鶏肉生産国において、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生や生産コスト上昇などの影響で鶏肉の供給が減少したことから、ブラジル産鶏肉への需要が高まったためとみられる。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは59万2388トン（同30.8%増）と前年の落ち込みから大幅に回復した。一方、中国に次ぐアラブ首長国連邦（同3.4%減）や日本向け（同1.3%減）はいずれも前年同期を下回った。日本向けについては、後述のブラジルでのHPAIの発生により輸出が一時的に停止され、8～9月の輸出量が前年同月より大幅に減少したことが影響した。このほか、インフレ対策として23年12月まで輸入関税の無税措置を講じているメキシコ向け（同20.9%増）は前年同期を大幅に上回った。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2022年（1～10月）			23年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	452,925	1,104,932	2,440	592,388	1,408,540	2,378	30.8%	27.5%	▲2.5%
アラブ首長国連邦	375,438	801,812	2,136	362,601	737,816	2,035	▲3.4%	▲8.0%	▲4.7%
日本	345,317	790,489	2,289	340,811	778,338	2,284	▲1.3%	▲1.5%	▲0.2%
サウジアラビア	290,182	719,457	2,479	305,404	699,781	2,291	5.2%	▲2.7%	▲7.6%
南アフリカ	227,502	149,756	658	285,489	167,389	586	25.5%	11.8%	▲10.9%
フィリピン	213,834	251,516	1,176	190,710	174,519	915	▲10.8%	▲30.6%	▲22.2%
韓国	153,221	335,863	2,192	166,469	347,988	2,090	8.6%	3.6%	▲4.6%
メキシコ	127,458	306,992	2,409	154,101	327,731	2,127	20.9%	6.8%	▲11.7%
その他	1,491,258	2,839,608	1,904	1,555,975	2,800,690	1,800	4.3%	▲1.4%	▲5.5%
合計	3,677,135	7,300,426	1,985	3,953,948	7,442,793	1,882	7.5%	2.0%	▲5.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

23年の鶏肉卸売価格は7月以降上昇に転じる

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2023年11月29日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり7.43リアル（223円：1リアル＝30.00円^{（注）}、前年同期比6.7%安）となった（図）。23年の価格の推移を見ると、22年12月ごろまで

図 サンパウロ州の鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

1キログラム当たり8リアル台を維持していたが、その後、鶏肉供給量の増加や牛肉、豚肉との価格差の縮小による鶏肉の価格競争力低下から需要が弱まり、23年7月には同5.66リアル（170円）と高値から3割程度下落した。しかし、その後は鶏肉供給減などにより、価格は上昇傾向に転じている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

ブラジル政府は23年11月、動物衛生緊急事態宣言を180日間延長

ブラジルでは2023年5月10日、南東部エスピリトサント（ES）州で初めて野生の海鳥2羽からHPAIの感染が確認された。その後11月29日までに148件の感染が確認されている。このうち、6月にES州、7月に南部サンタカタリーナ州および9月に中西部マットグロッソドスル州で計3件、自家消費用に飼っていた家きんから感染が確認され

た。この3件の感染確認を受けて日本政府は、ブラジルからの家きん肉などの輸入停止措置を講じた（10月20日までにすべて停止解除措置済み）。

また、ブラジル農牧省（MAPA）は5月22日、全国を対象に動物衛生緊急事態宣言（この措置は180日間有効）を発出し、連邦

政府が同国行政機関や民間組織と連携し、疾病のまん延防止のための緊急行動を実施した。さらにMAPAは11月7日、同宣言の期間をさらに180日間延長することを公表した。

（調査情報部 井田 俊二）

牛乳・乳製品

米 国

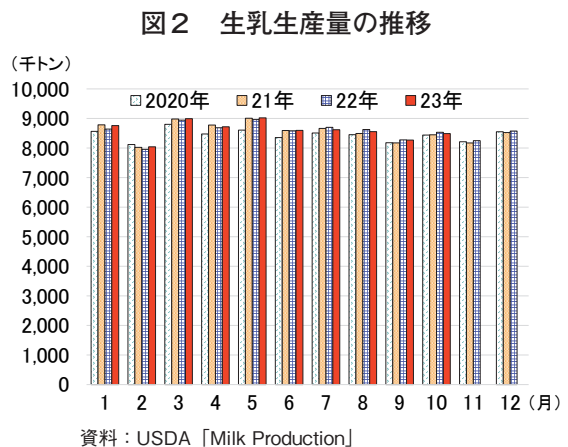
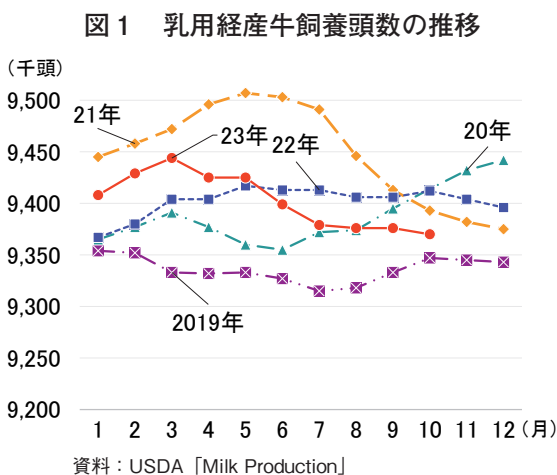
23年10月の生乳生産量は前年同月比0.5%減

23年10月の経産牛飼養頭数は前年同月比0.4%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年10月の乳用経産牛飼養頭数は937万頭（前年同月比0.4%減）とわずかに減少した（図1）。現地情報によると、乳価の上昇や、夏のうちに泌乳量の少ない乳牛の淘汰が進んだことなどにより、7月以降は牛群縮小のペースが鈍化している。

23年10月の生乳生産量は、飼養頭数の減

少から848万7000トン（同0.5%減）とわずかに減少した（図2）。こうした状況を踏まえUSDAは、23年の生乳生産量見込みを前月予測から22万7000トン引き下げ、1億301万1000トン（前年比0.3%増）と見込んでいる。



23年10月のチーズ卸売価格は前年同月比15%安

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2023年10月の

チーズ卸売価格は前年同月比15.0%安の1ポンド当たり1.72米ドル（1キログラム当たり562円：1ドル＝148.07円^{（注）}）とかなり大きく下落した（図3）。国内外の需要増を受けて生産量が増加したことで、需給が緩和したとみられる。これに伴い、23年10月の期末在庫量は66万4000トン（同1.2%増）とわずかに増加した。一方、バター卸売価格はホリデーシーズンに伴う需要の増加から、同6.4%高の1ポンド当たり3.38米ドル（1キログラム当たり1104円）とかなりの

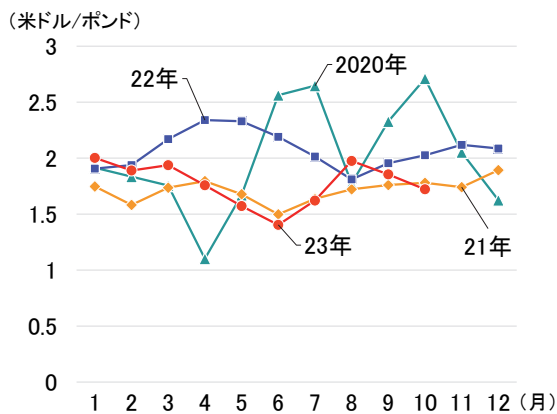
程度上昇した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2023年11月末TTS相場。

23年9月の乳製品輸出量は全体的に減少も、チーズはやや増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年9月の主要乳製品輸出量は、アジア諸国での需要減に加え、EU諸国やニュージーランドとの競合により、乳糖およびチーズを除いていずれも前年同月を下回った（表）。品目別に見ると、脱脂粉乳はメキシコやアジア諸国での需要減により、前年同月比20.1%減と大幅に減少した。特にメキシコ向けの減少は、7月以降、為替相場が米ドルに対してペソ安で推移していることも要因とみられる。また、WPC（タンパク質濃縮ホエイパウダー）は中国からの飼料用需要の低迷などから同28.7%減となった。一方で、チーズはEU産の価格が底堅い中、主要輸出先のメキシコや中国の旺盛な需要により、同4.3%増とやや増加した。

図3 チーズの卸売価格の推移



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」

注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（チェダーチーズ、40ポンドブロックのもの）。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～9月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	66.7	53.3	▲20.1%	611.7	▲2.2%
乳糖	38.9	40.0	2.8%	330.0	6.9%
チーズ	35.4	36.9	4.3%	324.7	▲4.6%
ホエイ	22.6	15.5	▲31.2%	135.7	▲17.8%
WPC	15.2	10.9	▲28.7%	107.3	▲20.5%
バター	4.8	2.1	▲57.3%	24.8	▲46.3%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

（調査情報部 小林 大祐）

9月の生乳出荷量は前年同月を下回り、乳価は前月並み

23年9月の生乳出荷量、13カ月ぶりに前年同月を下回る

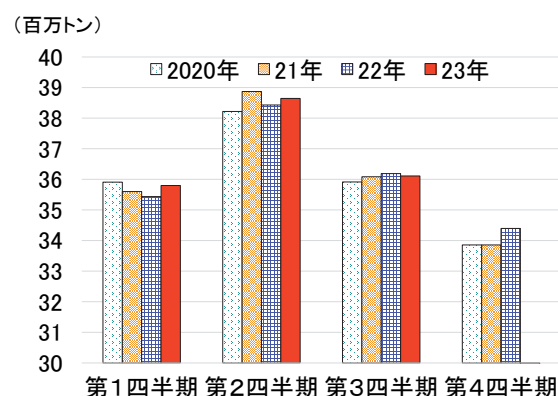
欧州委員会によると、2023年9月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1140万9000トン（前年同月比1.0%減）と13カ月ぶりに前年同月を下回った（表）。

主要生産国別に見ると、ドイツ（同0.2%増）およびポーランド（同1.5%増）は前年同月を上回った。一方、フランス（同4.8%減）、オランダ（同1.2%減）、イタリア（同3.3%減）およびアイルランド（同1.9%減）はいずれも前年同月を下回った。中でもオランダは16カ月ぶりに前年同月を下回っており、現地報道によると、同国で発生したブルータング^{（注1）}の影響が、生乳出荷量の減少の一因とされている。

四半期別の生乳出荷量を見ると、第1四半

期（1～3月）は、高水準となった生乳取引価格を背景に前年同期をわずかに上回り（前年同期比1.0%増）、第2四半期（4～6月）も欧州南部は酷暑となったが北部が比較的涼しく降雨もあり牧草の生育が良好となったことで、前年同期をわずかに上回った（同0.6%増、図1）。第3四半期（7～9月）

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2023年第3四半期は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2022年 9月	23年 9月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～9月)	
				前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,551	2,556	0.2%	24,659	2.2%
フランス	1,837	1,748	▲ 4.8%	17,788	▲ 2.5%
オランダ	1,106	1,093	▲ 1.2%	10,567	2.2%
ポーランド	1,023	1,038	1.5%	9,894	1.9%
イタリア	1,016	983	▲ 3.3%	9,496	▲ 2.4%
アイルランド	809	793	▲ 1.9%	7,506	▲ 1.0%
スペイン	572	575	0.6%	5,551	0.1%
デンマーク	460	457	▲ 0.5%	4,318	0.8%
ベルギー	361	365	1.0%	3,543	4.2%
その他	1,787	1,800	0.8%	17,230	0.8%
合計	11,520	11,409	▲ 1.0%	110,551	0.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

は、生乳取引価格が前年同期を大幅に下回ったことや、生産コストが依然として高止まりにあったことで前年同期並み（同0.2%減）となった。

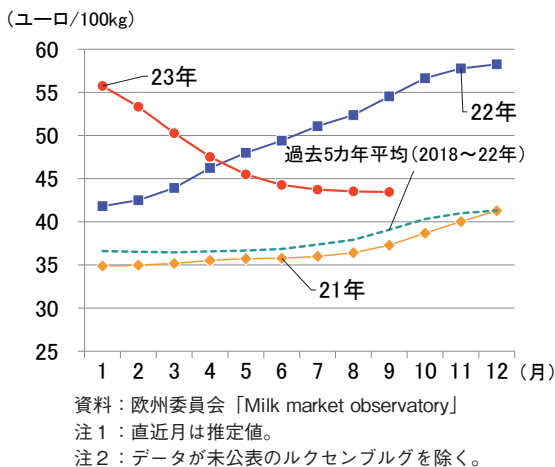
（注1）牛、羊、ヤギなどの反すう動物で発生するウイルス性の感染症。ウイルスは吸血昆虫によって媒介され、接触感染はない。感染すると、発熱、目やにや鼻水の漏水、口および鼻腔内に潰瘍ができるなどの症状がある。乳牛への感染により、泌乳量が減少するという。

23年9月の生乳取引価格、5カ月連続で前年同月を下回る

欧州委員会によると、2023年9月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり43.45ユーロ（7083円：1ユーロ＝163.01円^{（注2）}、前年同月比20.3%安）と前年同月を大幅に下回った（図2）。生乳取引価格は23年当初から9カ月連続で下落しているが、下落幅は縮小しており、9月は前月比0.2%安と前月並みとなった。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

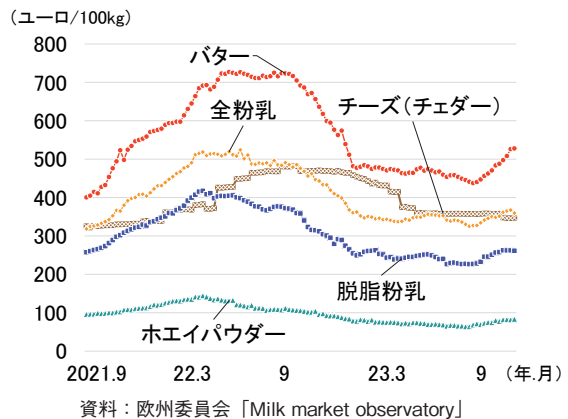
図2 生乳取引価格の推移



主要乳製品価格は前年同月比大幅安も、バター価格は上昇

欧州委員会によると、2023年11月26日の週の100キログラム当たり乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが528ユーロ（8万6069円、前年同期比17.1%安）、脱脂粉乳が261ユーロ（4万2546円、同16.2%安）、全粉乳が360ユーロ（5万8684円、同18.9%安）、チーズが347ユーロ（5万6564円、同26.3%安）、ホエイパウダーが84ユーロ（1万3693円、同12.5%安）と、すべての品目で前年同期を大幅にもしくはかなり大きく下回った（図3）。しかしながら、23年10月以降、バター価格は前週を上回って推移し、11月26日の週は前月最終週比8.2%高となった。米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、バターの原料となるクリームの需要が高く供給量が限られることで、乳業各社がバターの生産を抑制していることが要因とみており、年末需要に向けて各社の在庫量が徐々に減少しているとされている。

図3 乳製品価格の推移



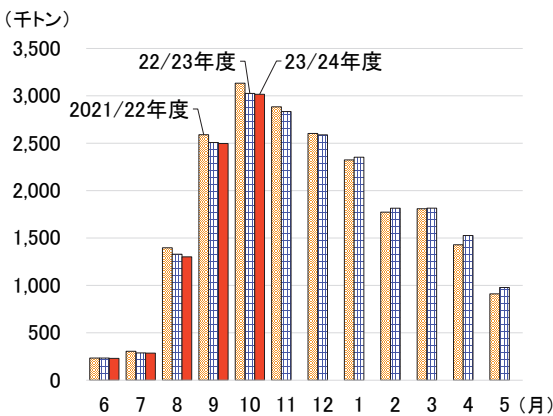
（調査情報部 渡辺 淳一）

GDT価格、チーズが今年最安値を記録

23年10月の生乳生産量、前年同月並み

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年10月の生乳生産量は301万6000トン（前年同月比0.3%減）と前年同月並みになった（図1）。この結果、23/24年度（6月～翌5月）の10月までの累計では、733万トン（前年同期比0.7%減）とわずかな減少にとどまった。今後の生乳生産量についてニュージーランド証券取引所

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

(NZX) は、乾燥気候をもたらすエルニーニョ現象の発生が予想よりも遅く、南島の主要生乳生産地帯であるカンタベリー地方を中心に牧草の生育状況が非常に良好であることから、好転すると見込んでいる。

23年10月の乳製品輸出量、主要4品目すべてが前年同月を上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年10月の乳製品輸出量は、主要4品目すべてで前年同月を上回った（表、図2）。品目別では、脱脂粉乳は最大の輸出先である中国向けのほか、主要輸出先であるマレーシア向けが同4倍程度増加したことから大幅に増加した。全粉乳は最大の輸出先の中国やインドネシア向けが減少したものの、主要輸出先の日本やアルジェリア向けが増加したことから、かなりの程度増加した。また、バターおよびバターオイルは最大の輸出先である中国向けは減少したが、日本やインドネシア向けが増加したことでやや増加した。チーズは中国をはじめ豪州、韓国向けがそれぞれ増加したことから大幅に増加した。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2022年 10月	23年 10月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7～10月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	29,878	38,846	30.0%	99,111	13.9%
全粉乳	113,555	124,992	10.1%	329,763	▲ 10.3%
バターおよびバターオイル	38,965	40,145	3.0%	128,165	▲ 4.3%
チーズ	24,212	31,631	30.6%	110,402	12.2%
合計	206,609	235,614	14.0%	667,440	▲ 2.9%

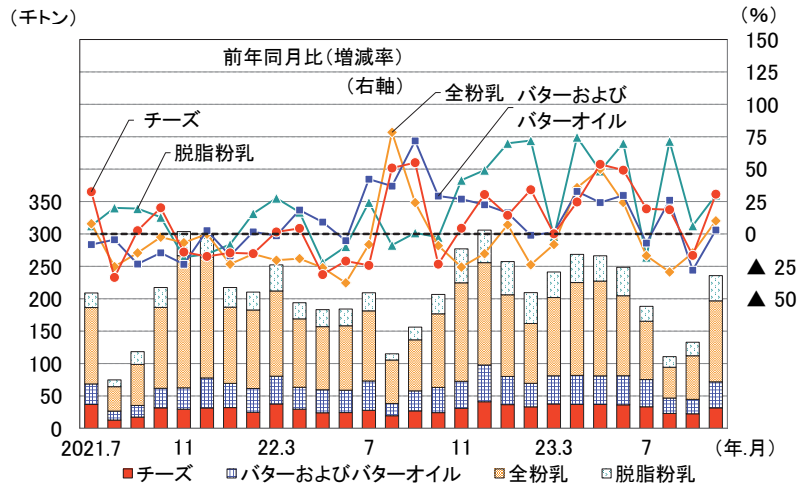
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

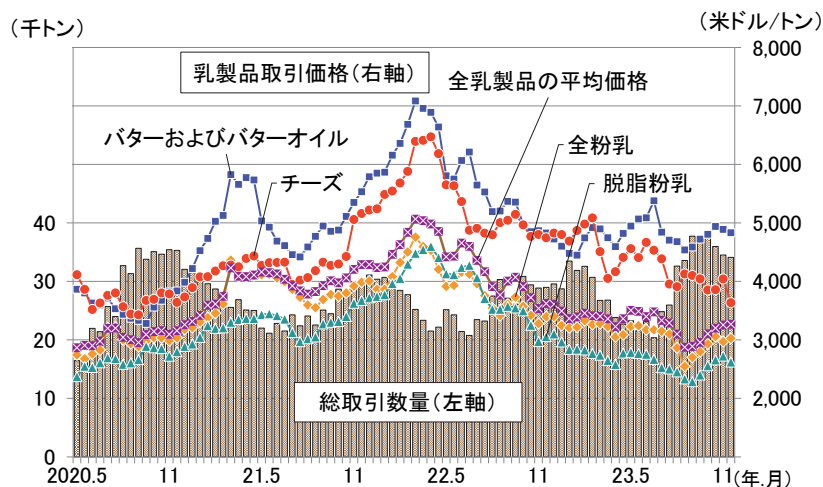
23年11月下旬のGDT価格、主要3品目で下落

2023年11月21日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、全粉乳を除く主要3品目で前回開催（11月7日）時の価格を下回った（図3）。特にチーズの平均取引価格は1トン当たり3637米ドル（53万8530円：1米ドル＝148.07円^(注2)、前年比10.0%安）とかなり

の程度下落し、今年最安値を記録した。今後の予測についてNZXのエコノミストは、南半球でのエルニーニョ現象の発生などから、世界的に生乳供給量がさらに制限される可能性があり、先行きは不透明であるとしている。

(注1) グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

(調査情報部 工藤 理帆)

中国

生乳生産量は引き続き増加、乳価の下落は止まらず

23年1～9月の生乳生産量、前年同期比6.7%増

中国国家统计局によると、2023年1～9月期の生乳生産量は、前年同期比6.7%増の2904万トンとなった（図1）。

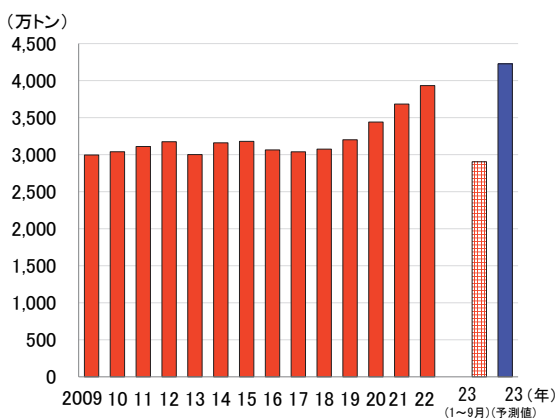
中国農業農村部が23年4月に公表した「中国農業展望報告（2023－32）」（以下「展望報告」という）^{（注1）}によると、23年の生乳等生産量^{（注2）}は同5.0%増の4227万トンと予測している。しかし（1）生乳のみで9月時点の累計生産量が2904万トンに達していること（2）中国の生乳生産量は通例10～12月期にピークを迎えることなどを考慮すると23年の生乳等生産量は、展望報告の予測を超える可能性が高い^{（注3）}。

（注1）海外情報「中国農業展望報告（2023－2032）を発表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003562.html）を参照されたい。

（注2）牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む生産量。

（注3）第3四半期（6～9月）と第4四半期（10～12月）の生乳生産量の比率（過去3年平均）から、本年第4四半期の生乳

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

注：2023年の予測値についてのみ、牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む。

生産量を試算すると1332万トンとなり、通年で4236万トンとなる。従って、これに他畜種由来の乳を加えた生乳等生産量は、予測量の4227万トンを超える可能性は高いと見込まれる。

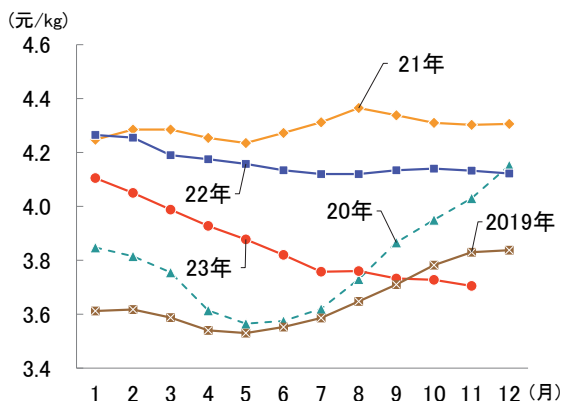
需要の減退により生乳価格は下落基調を継続

中国農業農村部によると、2023年11月の生乳価格は、1キログラム当たり3.71元（77.54円：1元＝20.90円^{（注4）}、前年同月比10.2%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。

この要因について現地専門家は、（1）国内の生乳生産量が引き続き増加している一方、（2）新型コロナウイルス感染症（COVID－19）の拡大やゼロコロナ政策に起因する需要減退からの回復が依然として鈍いことを挙げている。

（注4）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

国産在庫の積み増しで粉乳類など乳製品輸入量は引き続き減少

2023年1～10月の主要乳製品8品目の輸入量は、8品目中5品目で引き続き前年割れとなった（表）。

このうち、全粉乳は38万9000トン（前年同期比38.1%減）と最も減少幅が大きい（図3）。この要因として、米国農務省海外農業局(USDA/FAS)が10月に公表したレポートは、（1）生乳生産が好調に増加する中で、国産の全粉乳在庫が積み増していること（2）近年、還元乳や乳飲料、還元ヨーグルトなど全粉乳から製造される乳製品の需要は、健康志向の強い富裕層において低迷し、全粉乳の消費が落ち込んでいること一などを

挙げている。

また同レポートでは、全粉乳の需要の低迷と期末在庫の増加から、全粉乳の輸入の減少傾向は24年も続くと予想している。

図3 全粉乳の輸入量の推移

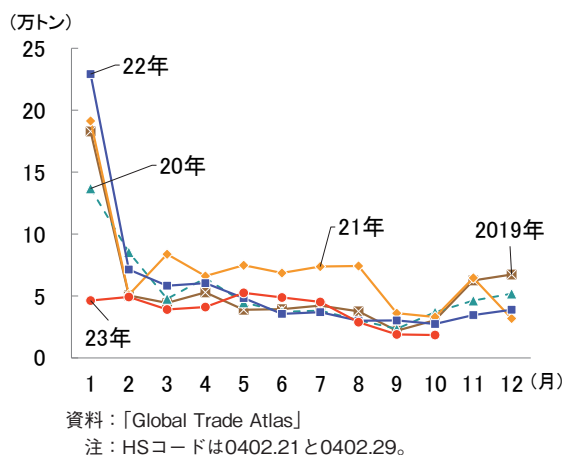


表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
							前年同期比 (増減率)
全粉乳	67.1	64.4	84.9	70.1	38.9	▲38.1%	▲38.0%
脱脂粉乳	34.4	33.6	42.6	33.5	30.5	8.5%	▲3.2%
飲用乳	72.9	84.5	99.6	72.2	45.3	▲25.6%	▲10.9%
ヨーグルト	3.2	2.8	2.5	2.2	1.7	▲6.1%	6.9%
チーズ	11.5	12.9	17.6	14.5	14.6	18.1%	32.0%
バター	6.2	8.6	9.7	10.1	7.8	▲8.8%	1.0%
育児用調整粉乳	35.6	34.8	27.3	28.0	20.9	▲9.4%	3.9%
ホエイ	45.1	62.3	71.8	59.9	54.1	11.6%	0.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

世界の生産量は前回から上方修正され、過去最大の見込み

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2023年11月9日、2023/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表)。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億2079万トン(前年度比5.5%増)と前月から632万トン上方修正され、前年度をやや上回り、過去最大であった一昨年度をも上回る生産量が見込まれている。地域別に見ると、干ばつやハリケーンの影響を受けて収穫面積が減少したメキシコなどが下方修正されたが、好天に恵まれたウクライナや、ロシア、米国などでの上方修正分がそれを上回った。

輸入量は、世界全体で1億8987万トン(同10.3%増)と前月から295万トン上方修正され、前年度をかなりの程度上回った。地域

別に見ると、EUは2450万トン(同4.3%増)と前月から上方修正され、中国は2300万トン(同22.9%増)と前月から据え置かれた。

消費量は、世界全体で12億503万トン(同3.2%増)と前月から483万トン上方修正された。地域別に見ると、主要消費国である米国などが前月から上方修正された。

輸出量は、世界全体では1億9962万トン(同10.3%増)と前月から337万トン上方修正された。地域別に見ると、インドは主要輸出先であるバングラデシュの需要減により前月から下方修正されたが、生産量を上方修正した米国やロシア、ウクライナなどが前月から上方修正された。

この結果、期末在庫は3億1499万トン(同5.3%増)と前月から259万トン上方修正され、前年度からやや増加すると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2023年11月9日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
			(10月予測)	(11月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	31.36	34.98	34.58	34.58	▲ 1.1%
	生産量	382.89	348.37	382.65	386.97	11.1%
	輸入量	0.62	0.98	0.64	0.64	▲ 34.7%
	消費量	317.09	307.55	312.82	314.72	2.3%
	輸出量	62.80	42.20	51.44	52.71	24.9%
	期末在庫	34.98	34.58	53.62	54.75	58.3%
アルゼンチン	期首在庫	1.18	1.80	1.11	1.11	▲ 38.3%
	生産量	49.50	34.00	55.00	55.00	61.8%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.20	11.70	14.10	14.10	20.5%
	輸出量	34.69	23.00	41.00	41.00	78.3%
	期末在庫	1.80	1.11	1.01	1.01	▲ 9.0%
ブラジル	期首在庫	4.15	3.97	10.36	10.27	2.6倍
	生産量	116.00	137.00	129.00	129.00	▲ 5.8%
	輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
	消費量	70.50	75.00	77.50	77.50	3.3%
	輸出量	48.28	57.00	55.00	55.00	▲ 3.5%
	期末在庫	3.97	10.27	8.06	7.97	▲ 22.4%
ウクライナ	期首在庫	0.83	7.59	2.41	2.41	▲ 68.2%
	生産量	42.13	27.00	28.00	29.50	9.3%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	8.40	5.20	5.50	5.50	5.8%
	輸出量	26.98	27.00	19.50	20.00	▲ 25.9%
	期末在庫	7.59	2.41	5.43	6.43	2.7倍
EU	期首在庫	7.83	11.39	7.19	7.18	▲ 37.0%
	生産量	71.55	52.29	59.70	59.80	14.4%
	輸入量	19.74	23.50	24.00	24.50	4.3%
	消費量	81.70	76.00	79.50	80.00	5.3%
	輸出量	6.03	4.00	4.10	4.10	2.5%
	期末在庫	11.39	7.18	7.29	7.38	2.8%
中国	期首在庫	205.70	209.14	205.82	206.04	▲ 1.5%
	生産量	272.55	277.20	277.00	277.00	▲ 0.1%
	輸入量	21.88	18.71	23.00	23.00	22.9%
	消費量	291.00	299.00	304.00	304.00	1.7%
	輸出量	0.00	0.01	0.02	0.02	2.0倍
	期末在庫	209.14	206.04	201.80	202.02	▲ 2.0%
世界計	期首在庫	292.97	310.34	298.13	299.22	▲ 3.6%
	生産量	1217.27	1157.08	1214.47	1220.79	5.5%
	輸入量	184.44	172.21	186.92	189.87	10.3%
	消費量	1199.90	1168.20	1200.20	1205.03	3.2%
	輸出量	206.59	180.94	196.25	199.62	10.3%
	期末在庫	310.34	299.22	312.40	314.99	5.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月／ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月／アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

米国の単収増で生産量は上方修正、 世界の大豆期末在庫は引き続き増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年11月9日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新

した（表）。

これによると、世界の生産量は4億42万トン（前年度比7.6%増）と前月から92万トン上方修正された。このうち、最大の生産国

表 主要国の大豆需給見通し（2023年11月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		前年度比 (増減率)
			(10月予測)	(11月予測)	
米国					
期首在庫	6.99	7.47	7.30	7.30	▲ 2.3%
生産量	121.53	116.22	111.70	112.39	▲ 3.3%
輸入量	0.43	0.67	0.82	0.82	22.4%
消費量	59.98	60.20	62.60	62.60	4.0%
輸出量	58.57	54.21	47.76	47.76	▲ 11.9%
期末在庫	7.47	7.30	5.98	6.68	▲ 8.5%
ブラジル					
期首在庫	29.58	27.60	31.45	33.44	21.2%
生産量	130.50	158.00	163.00	163.00	3.2%
輸入量	0.54	0.16	0.45	0.45	181.3%
消費量	50.71	53.00	55.75	55.75	5.2%
輸出量	79.06	95.51	97.50	97.50	2.1%
期末在庫	27.60	33.44	37.70	39.69	18.7%
アルゼンチン					
期首在庫	25.06	23.90	17.50	17.21	▲ 28.0%
生産量	43.90	25.00	48.00	48.00	92.0%
輸入量	3.84	9.06	5.70	5.70	▲ 37.1%
消費量	38.83	30.32	34.50	34.50	13.8%
輸出量	2.86	4.19	4.60	4.60	9.8%
期末在庫	23.90	17.21	24.85	24.56	42.7%
中国					
期首在庫	30.86	29.25	36.80	33.79	15.5%
生産量	16.40	20.28	20.50	20.50	1.1%
輸入量	90.50	100.85	100.00	100.00	▲ 0.8%
消費量	87.90	95.00	97.00	98.00	3.2%
輸出量	0.10	0.09	0.10	0.10	11.1%
期末在庫	29.25	33.79	37.20	33.69	▲ 0.3%
世界計					
期首在庫	100.26	98.06	101.89	100.31	2.3%
生産量	360.43	372.24	399.50	400.42	7.6%
輸入量	155.58	165.11	165.75	165.75	0.4%
消費量	314.50	313.43	328.49	329.47	5.1%
輸出量	154.25	170.95	168.24	168.29	▲ 1.6%
期末在庫	98.06	100.31	115.62	114.51	14.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに続く米国は単収の引き上げ（前月の1エーカー当たり49.6ブッシェルから同49.9ブッシェル）により69万トン上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億6575万トン（同0.4%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2947万トン（同5.1%増）と前月から98万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は9800万トン（同3.2%増）と前月から100万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億6829万トン（同1.6%減）と前月から5万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置

かれた。

この結果、期末在庫は1億1451万トン（同14.2%増）と前月から111万トン下方修正されたが、引き続き前年度水準をかなり大きく上回っている。

米国の状況について現地情報によると、米国の単収増は業界予測を上回る水準であり、生産量が増加する中で消費量、輸出量ともに据え置かれたことで、期末在庫は想定を上回ったとされる。一方で南米については、ブラジルなどで報告されている乾燥気候の影響が今回の予測値には加味されていないことから、今後の南米の生産動向に注視が必要とされている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国の生産量は過去最大で輸出量も前年度から大幅増加の見込み

USDA/WAOBは同日、2023/24年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、単収が上方修正されたことから152億3400万ブッシェル（3億8696万トン^{（注1）}、前年度比11.1%増）と前月から1億7000万ブッシェル（432万トン）上方修正され、過去最大の生産量が見込まれている。今夏は多くの地域で猛暑と乾燥気候が長引き、収量の落ち込みが懸念されていたものの、収穫作業は好天などにより順調に進んだことを受け、上方修正されたものとみられる。

米国内消費量は、123億9000万ブッシェル（3億1472万トン、同2.3%増）と前月から上方修正され、前年度からわずかに増加すると見込まれている。

輸出量は、20億7500万ブッシェル（5271万トン、同24.9%増）と前月から上方修正され、前年度から大幅に増加すると見込まれている。

期末在庫は、消費量の増加を上回る供給量の増加が見込まれることから、21億5600万ブッシェル（5476万トン、同58.4%増）と前月から4500万ブッシェル（114万トン）上方修正され、前年度から大幅に増加すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.9%（同5.0ポイント増）と前月から0.2ポイント増加し、昨年を上回る水準が予測されている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.85米ドル（718円：1米ドル＝148.07円^{（注2）}）。

1 キログラム当たり28.3円、同25.8%安)と前年度からは大幅に下落すると見込まれている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し (2023年11月9日米国農務省公表)

区分	-単位-	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
				(10月予測)	(11月予測)	参考 (換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	93.3	88.6	94.9	94.9	38.41 (百万ヘクタール)	7.1%
収穫面積	(百万エーカー)	85.3	79.1	87.1	87.1	35.25 (百万ヘクタール)	10.1%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.4	173.0	174.9	10.98 (トン/ヘクタール)	0.9%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,361	1,361	34.57 (百万トン)	▲1.2%
生産量	(百万ブッシェル)	15,074	13,715	15,064	15,234	386.96 (百万トン)	11.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	39	25	25	0.64 (百万トン)	▲35.9%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,333	15,130	16,451	16,621	422.19 (百万トン)	9.9%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,483	12,108	12,315	12,390	314.72 (百万トン)	2.3%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,726	5,549	5,600	5,650	143.52 (百万トン)	1.8%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,757	6,558	6,715	6,740	171.20 (百万トン)	2.8%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,320	5,176	5,300	5,325	135.26 (百万トン)	2.9%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,472	1,661	2,025	2,075	52.71 (百万トン)	24.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,956	13,769	14,340	14,465	367.43 (百万トン)	5.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,361	2,111	2,156	54.76 (百万トン)	58.4%
期末在庫率	(%)	9.2	9.9	14.7	14.9		5.0ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.54	4.95	4.85	28.3 (円/kg)	▲25.8%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表2と一致しない場合がある。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

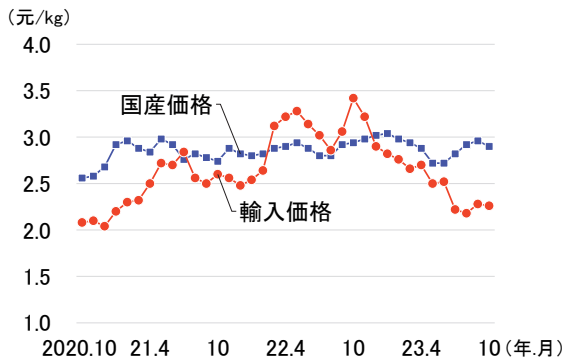
国産トウモロコシ価格、増産に伴う供給増から弱含みでの推移と予想

中国農業農村部は2023年11月24日、「農産物需給動向分析月報 (2023年10月)」を公表した。この中で、同年10月の国産トウモロコシ価格は前月比2.0%安となり、増産が伝えられる中で下落に転じている (図1)。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では今年の増産が確実となり、主産地の気温も例年より高く新穀の貯蔵に適していないこ

とから、生産者の出荷意欲が増していると考えられている。一方、需要面では飼料やエタノール、コーンスターチ (でん粉) 業界からの需要はあるものの、いずれの業界も経営改善を進める中で、在庫を抱えず必要量のみを調達している状況とされている。このため、需給は緩和傾向にあり、国産トウモロコシ価格は短期的には弱含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格 (関

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

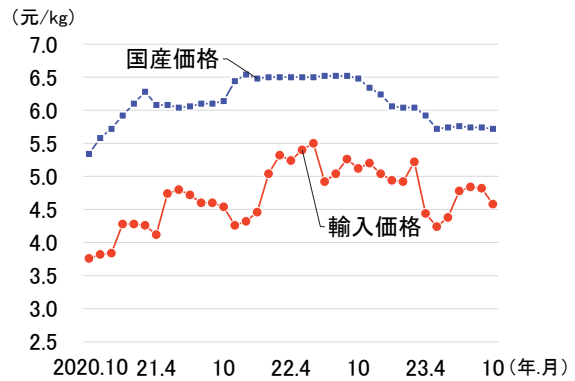
税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、23年10月が1キログラム当たり2.26元（47円：1元＝20.90円^{（注）}）となった。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.90元（61円）となったことで先月の同0.68元（14円）から同0.64元（13円）に縮小した。

国産大豆価格、需要拡大の期待から安定・強含みでの推移と予想

2023年10月の国産大豆価格は、安定した生産が伝えられる中で前月比0.3%安となった（図2）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面では新穀の市場供給量が増加し、また、品質も前年から大幅に向上しているとされている。需要面では食用油や大豆製品の需要が安定しているものの、市場への供給増を見据え、取引業者は必要量のみを購入している状況とされる。一方で、備蓄在庫の購入も開始されており、年末にかけて消費需要の拡大も期待されることで、国産大豆価格は短期的には安定または強含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

23年10月が1キログラム当たり4.94元（103円、前年同月比16.5%安）と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.72元（120円、同11.8%安）とかなり大きく下回った。輸入大豆価格が下落したことから、国産大豆と輸入大豆の価格差は、同1.14元（24円）と前月から拡大した。

なお、今回の公表では、2022年10月以降の輸入大豆の価格が修正されている。

国際相場に影響する大豆の輸入量については、前年に比べて高い水準で推移している。23年（1～9月）の輸入量は7780万トン（前年同期比14.4%増）、輸入額は同3.7%増の475億700万米ドル（7兆344億円：1米ドル＝148.07円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の70.8%）、米国（同24.3%）である。5月以降、搾油需要の増加に伴い輸入量は増加しており、国内の大豆および大豆かす在庫量は十分にあるとされている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年11月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）